

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	施設としての理念が無い。そのため職員各自の考えに基づき行動するため方向性が統一できていない。	施設として介護についての理念を設定することによりケアの方向性を共有する。 同じ認識の下でケアを行なうことで利用者様に、より安心した生活を送っていただくことができる。 また職員間のコミュニケーションも円滑に図る事ができるようになる。	管理者、職員間で理念(理想)について意見を出し合い、話し合った結果いくつかにまとめ、設定していく。	2ヶ月
2	6	身体拘束適正化のための指針が整備されていない。内部研修を行なうことで意識を高めてはいるが、限定的である。	指針を整備し、委員会を開催することで職員の意識を定期的に高めると共に、介護職員としての専門性も高める。	法人の指針を確認し、当施設に則した内容へ調整した後に、職員の目の届く場所へ設置する。 また、委員会を定期的(3ヶ月に1回、随時)に開催する。	1ヶ月
3		(アンケート結果より) 前回に比べ肯定的な意見が減少している。施設としての質が下がったといえる。 いくつかの要因が考えられるが職員の減少が挙げられる。	現状で出来ること、していかなければいけないことを整理し、業務改善、環境整備、職員教育等を行なっていく。その結果、職員が生き生きとしている施設を実現する。そして利用者様に対するケアの時間を充実させていく。	職員への個人面談を実施し、現状についての思い、意見を聞く。その後内容を精査し、業務改善や教育等を行っていく。	3ヶ月
4	26	介護計画について、説明は受けたが話し合っていないという指摘がある。担当者が不在時に面会に来られた際に、代理者から説明を受けるケースがある為と思われる。	家族の思いや、面会日などを聞き取る。	家族との連絡を密にする。少なくとも介護計画作成前には必ず確認する。	1ヶ月
5					ヶ月